

創意ある中小企業を表彰する第2回「岡山県経営革新アワード」(具、県産業振興財団主催)で、良金工業(岡山市)がグランプリを受賞、システムタイズ(同)とニシキ金属(同)が優秀賞に選ばれた。中小企業新事業活動促進法に基づき経営革新計画を策定した企業が対象で、いずれも独自の技術やアイデアを生かして業績を伸ばした点が評価された。意欲的に販路開拓や新事業に取り組み3社を紹介する。

岡山県経営革新アワード第2回受賞企業

ICT活用 学習塾参入

医療や流通業界、自治体のシステム開発が主力。「ICT(情報通信技術)は、さまざまなビジネスの成長を支える裏方」という根木克己社長の方針で、2010年に経営革新計画を策定し、ICTを活用した学習塾「タイズ」の経営に乗り出した。

自社の人材、IT技術を生かして成績の推移、過去の合格実績などを細かくデータ化している。中でも保護者に好評なのが「安心・安全メールサービス」という。塾生が非接触型ICカード技術「FeiCa」機能が付いた携帯電話や、IC乗車券のICOCAを端末にかざすと、入退出時間が保護者へメールで自動送信される。

講師は岡山大医学部生が中心で、10人程度の集団授業、学力に応じた個別授業を両立させたきめ細やかなスタイルも特徴。現在、幼稚園の年長組から高校3年生まで約100人が利用、岡山市内2カ所に教室を構える。

同社は売上高約6億円(15年12月期)。うち学習塾部門は約2千万円で順調に伸びているという。根木社長は「ICTを使ったパソコンでの遠隔授業など新たな学習塾モデルの構築を進めながら、岡山の子どもたちの学力向上に貢献したい」と話す。(橋本直樹)

システムタイズ (岡山市北区下中野)



自社開発した「安心・安全メールサービス」

優秀賞